



青森県

い な か だ て

田舎館村

2 0 1 7 村 勢 要 覧

Inakadate village's guide book 2017

発刊にあたって

田舎館村は津軽平野の南側に位置し、青森県で面積が1番小さい村です。浅瀬石川の清流や肥沃な土壌の恵みを楽しんでいる村は稲作と縁が深く、国史跡に指定されている垂柳遺跡からは弥生時代の水田跡が発見されており、稲作の歴史と文化を現代に継承し続けています。

また、海や山がない平坦な土地が続く村に、「新たな観光資源を」と始めた田んぼアートは今年で25年目を迎えました。これまで村民をはじめ、田んぼアートに携わった多くの方々に支えられながら制作精度の向上に努め、今日国内外から注目を浴び、毎年20万人以上のお客様が訪れてくださるまでに発展を遂げることができました。村では今、全国的な空家の増加や人口減少などの諸問題に対する取り組みのほか、短命村の解消という目標に向かって村づくりに邁進しています。

また、近年進行している核家族世帯の増加、少子高齢化や混住化などから、集落における住民同士のつながりが薄れてきていることを懸念しています。自然災害では住民の生命、財産を守るためにも、お互いに助け合える地域づくりが必要不可欠であり、村では集落において住民主体による自主防災活動を推進しています。自主防災活動を通じて住民同士の絆が強くなることを願っています。

この要覧により、「小さな村の大きな躍進」を掲げ、未来に向かう田舎館村のあらましを知っていただく一助としていただければ幸いです。今後の村づくりにさらなるご支援、ご協力お願い申し上げます。

平成29年12月

田舎館村長 鈴木孝雄



石アート「Princess Diana」(平成29年制作風景)

移りゆく 四季に実るアートのむら いなかだて



田んぼアート



スノーアート

目次 — Contents —

- 3 沿革・地勢
- 5 ガイドマップ
- 7 観光・文化
- 9 特集 空地^{くうち}の高架橋 — 回想 垂柳遺跡 —
- 13 産業・物産
- 15 教育・福祉
- 17 防災・交通
- 18 行政・議会
- 19 四季
- 23 村民憲章・村民歌
- 24 資料編

Cover photo：小野 心遙^{こはる}ちゃん

平成29年7月23日、総合案内所「遊稲の館」で
開催された第9回どろリンピックにて



どろリンピック

水田をグラウンドに、子どもから大人まで泥だらけを楽しみながらボール取り競争や綱引きなどを行う運動会です。田舎館村で活動している地域づくり団体の「田園」未来を築く会が、総合案内所「遊稲の館」周辺の水田を会場に、毎年7月頃に開催しています。

沿革・地勢

津軽平野の南側に位置し、東に八甲田連峰、西に岩木山をのぞむ田舎館村は、昭和30年4月1日に田舎館村と光田寺村の合併により誕生しました。村内からは縄文時代や弥生時代の遺跡が多く確認されており、特に弥生時代中期の水田跡656枚が検出され、国史跡に指定されている垂柳遺跡は東北地方における稲作農耕の歴史において貴重な発見となり、当時全国的な注目を集めました。

「田舎館」の地名はいつごろ、どのようにして生まれたのか由来ははっきりとしていませんが、天文15年(1546年)の「天文の郡中名字」という村帳には「村は津軽田舎郡に属していた」と記されています。また、昔はこの地域一帯が蝦夷の中央であったため「夷中^{いなか}」と称され、それがのちに「田舎」となった説や、これまでの米作りの歴史から大和言葉の「稲家」が地名に関係しているとも考えられています。

村の中央を流れる浅瀬石川、弘前市との境を南北に流れる平川があることから、土地の大部分は河水に運ばれた土が堆積して生じた土壌(沖積土)で覆われており、豊かな水と肥よくな土壌は、はるか昔から現在まで私たちにたくさんの恵みを与え続けています。

農業を基幹産業としながら、周囲を弘前市、黒石市、平川市、藤崎町に囲まれている立地条件を活かして企業誘致を進めており、自然と工業の調和した稲かおるふる里として、発展を続ける取り組みを行っています。



村章

統一円満を意味する円の中に、田舎館村の頭文字であり、稲穂が実る村のイメージとしての「田」がおさめられ、上部には村の歴史を物語る館(城)を配しています。広く一般に公募した中から当時の川部小学校に勤務していた高木春雄氏の作品を選び、昭和34年に制定しました。



村の花 “稲の花”

弥生時代から続いていたことが明らかになっている稲作は村の基幹産業であり、これまで反収日本一を何度も記録したほか、現在は食味日本一を目指した米作りが行われています。また、色の異なる品種の稲で絵を描く田んぼアートは国内外から注目を集め、村の代表的な取り組みの一つとなりました。稲の花は開花から2時間ほどしか咲きませんが、限られた時間を精一杯生きるさま、神秘的で貴重な存在であることから、村に相応しく、村の土台を支えている花といえます。この村の花は平成23年に制定しました。



村の木 “サイカチ”

サイカチはジャケツイバラ科サイカチ属の落葉高木で、幹や枝には鋭いトゲが多数あります。生育はすくすくと伸びやかに枝を広げ、夏の日差しを緑の葉で和らげ、秋にはさや状の実がたくさん実ります。天正13年(1585年)、津軽為信の攻略で亡くなった300余名を埋葬した際の供養樹として田舎館城址に植えられており、生育の様子や歴史的観点のほか、村指定文化財でもあることから、村を象徴するもっとも相応しい木といえます。この村の木は平成23年に制定しました。

田んぼアート PR 特命係長
こめ
米こめくん



【プロフィール】

- 生まれた日／8月18日
- 身長／185cmくらい
- 好きなもの／スチューベン、田舎館いちご、シクラメン

田んぼアートから誕生したお米の妖精。
ご当地キャラクターとして田舎館村をPRするため、県内外のイベント等に登場しています。

名誉村民



田澤吉郎氏

大正7年1月、諏訪堂地区生まれ。昭和22年に青森県議会議員として当選後、同議長を経て昭和35年に衆議院議員として初当選以来12期連続当選。昭和51年に国務大臣国土庁長官、昭和56年に農林水産大臣、昭和63年8月と同年12月に国務大臣防衛庁長官（2期）を歴任されました。
平成13年12月12日 永眠



鈴木喜代春氏

大正14年7月、高田地区生まれ。東光寺尋常小学校、青森師範学校本科を卒業後、前田屋敷国民学校訓導、千葉県内の小・中学校長を歴任し、千葉大学教育学部講師を経て、晩年は執筆活動に専念されました。昭和62年に「津軽の山歌物語」で第12回日本児童文芸家協会賞を受賞されたほか青森県文芸協会賞などを受賞。平成7年に自著を含む4千冊以上の蔵書や執筆原稿を村へ寄贈されたほか、平成23年に統合した田舎館小学校の校歌を作詞されています。
平成28年5月13日 永眠



花田茂廣氏

昭和13年3月、大鰐町生まれ。生後まもなく川部地区に転居後、小・中学校、高校時代を過ごし、昭和30年に春日野部屋へ入門。同年9月に「花田」で初土俵をふみ、その後しこ名を「栃ノ海」に改め、昭和37年に大関、昭和39年に第49代横綱へ昇進。昭和41年に引退するまで優勝3回、技能賞6回、敢闘賞1回を受賞。引退後は、年寄「中立」を襲名、平成2年1月に春日野部屋を継承され春日野親方、日本相撲協会理事、巡業部長を歴任されました。



菅井勲氏

昭和19年1月、青森市生まれ。幼年時代を新町地区で過ごし、東京理科大学理学部第二部物理学科を卒業後、平成元年に東京工業大学より理学博士の学位を受け、東京大学原子核研究所文部教官助手を務められました。昭和53年に原子核実験用標的薄膜制作で科学技術庁長官賞を受賞。平成6年には高エネルギー加速器科学研究奨励賞、西川賞、市村学術賞など科学関係最高権威の賞を多数受賞されました。

芸術文化

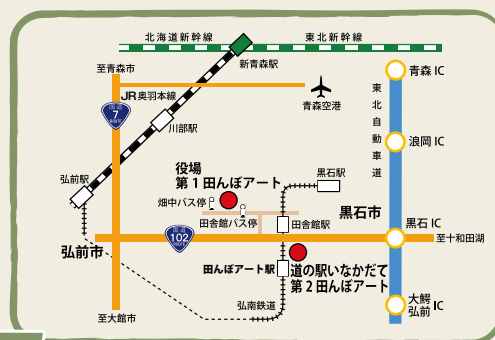


田澤茂氏

大正14年1月、川部地区生まれ。画家として昭和61年に「田澤茂画集」を出版。平成5年には第15回日本秀作美術展に選出されました。平成16年には、長年子どもの絵画教室を主宰し多くの美術家を育成してきた功績により青森県文化賞を受賞。生前は、広報いなかだて1月号の表紙画も描かれていました。埋蔵文化財センター・博物館「田澤茂記念美術館」では田澤氏の数々の作品を展示しています。
平成26年11月24日 永眠

いなかだてガイドマップ

田舎館村には22の集落（高樋、十二川原、枝川、垂柳、田舎館、八反田、畑中、大曲、諏訪堂、大根子、豊蒔、大袋、川部、和泉、境森、前田屋敷、土矢倉、堂野前、新町、東光寺、二津屋、高田）があり、それぞれの地区では住民により集落会、消防団、子ども会、婦人会、老人クラブ等が組織され、集落内の公園や農業水路などの環境美化活動、ねぶた運行や祭り行事、スポーツ大会などのコミュニティ活動、防災訓練等の自主防災活動、防火活動などの自治活動が行われています。



「弥生の里」エリア



国道102号バイパス道路沿いにある道の駅いなかだて「弥生の里」には大型コンビネーション遊具やパターゴルフ場、産地直売センター、レストランなどがあり家族揃って過ごすことができます。産地直売センター内には、全国の村では初となった平成12年開局のコミュニティFM放送局「FMジャイゴウェーブ」(76.3MHz・<http://www.fm-jaigo.co.jp>)があり、地域に密着した情報や、村の行政情報などを放送しています。



産地直売センター



FMジャイゴウェーブ



レストランジャイゴ



弥生の里展望所



弘南鉄道/田んぼアート駅



JRAウインズ津軽



埋蔵文化財センター・博物館(田澤茂記念美術館)



総合案内所「遊稲の館」

交通のご案内

- 電車**
- JR東日本/川部駅 車(約10分) 役場 車(約5分) 道の駅
 - 弘南鉄道/田舎館駅 車(約5分) 役場
 - 弘南鉄道/田んぼアート駅 徒歩(約1分) 道の駅
- 飛行機**
- 青森空港 車(約45分) 役場 車(約5分) 道の駅

お車

- 黒石IC 車(約5分) 道の駅 車(約5分) 役場
- 大鰐弘前IC 車(約20分) 役場 車(約5分) 道の駅
- 弘前駅前バス停 黒石・大川原行き(約20分) 畑中 徒歩(約3分) 役場
- 黒石駅前バス停 弘前バスターミナル(約12分) 田舎館 徒歩(約5分) 役場

バス

田んぼアートは次のステップへ

観光・文化



田んぼをキャンパスに見立て、黄稲や紫稲など7色の稲で精細な図柄を表現する田んぼアートは、平成5年に田舎館村から発祥しました。当時は田んぼアートという名称がなく稲文字と呼ばれていたものが年々進化を重ね、今や国内外から注目を浴びるようになり、毎年たくさんの方にご覧いただいております。また、平成26年には天皇皇后両陛下がご来村され、第1田んぼアートをご観覧になりました。これまで、第1田んぼアートは田舎館村展望台6階天守閣からご覧いただいておりますが、見ごろの時期に長い待ち時間が発生することが多かったため、平成28年に4階展望デッキを新設し、待ち時間を大幅に解消することができるようになりました。

平成29年第1田んぼアート「ヤマタノオロチとスサノオノミコト」

道の駅いなかだて敷地内へ弥生の里展望所を整備し、平成24年から始めた第2田んぼアートでは従来の田んぼアートのほかに、色の異なる小石を並べて著名な故人や、田んぼアートにちなんだ短文芸作品を描く石アートを平成27年から始めました。さらに第2田んぼアート約10,000㎡を活用した冬期観光の取り組みにも新たに着手し、平成28年と29年には、雪原をスノーシューで歩き、その足跡で模様を描くスノーアート第一人者で英国人のサイモン・バック氏による冬の田んぼアートを青森県と共同で開催。サイモン氏の来日時には地元有志がスノーアートの制作手法を学んでおり、冬の田んぼアートは今後、有志が組織したスノーアーティスト集団 It's OK. が独自制作したスノーアートの公開を軸に、春から公開が始まる石アート、夏から秋の田んぼアート、スノーアートによる冬の田んぼアートと、四季とともにアートが楽しめる村を目指していきます。



平成29年第2田んぼアート「桃太郎」



田舎館村展望台4階展望デッキ



第1～第2田んぼアート間を結ぶ無料シャトルワゴン車「たさあべ号」



平成28～29年石アート「惜しまれる人 石原裕次郎」



冬の田んぼアート with Simon Beck's Snow Art (2017年)



田植え体験ツアー／第1 田んぼアート



稲刈り体験ツアー／第1 田んぼアート



3つのアートとともに、 受け継ぎ、 後世へ伝える 歴史と文化

垂柳遺跡によって明らかになった弥生時代から続く稲作農耕は、田舎館村を象徴する歴史のひとつです。また、村には多くの文化財や工芸、伝統行事などがあり、先人が築いてきた歴史や文化を今に伝えています。

弥生時代の水田跡／埋蔵文化財センター（遺構露出展示室・高樋(3)遺跡）



田舎館城址／田舎館地区

【村文化財指定】

田舎館千徳氏五代掃部政武の居城跡。天正13年(1585年)5月、津軽為信によって攻略され、その戦いで亡くなった300余名を埋葬した際に供養樹として植えられた樹齢400年以上のサイカチ大樹と、昭和59年に建立された記念碑が昔を偲ばせています。



十一面観音像／田舎館地区 （胸肩神社・弁天堂）

【県重宝・村文化財指定】

美濃（岐阜県）出身の僧、円空による寛文7年(1667年)頃の作で、円空仏とも呼ばれています。青森県内に残る同像の中では早い時期のもので、最も高い約182cmの総高で作られています。



中村善時「耕作断」／博物館

【村文化財指定】

安永5年(1776年)、70余年間の農業体験を説いた農書。江戸時代の寒冷地における稲作の状況や指導が記されています。



垂柳獅子踊り／垂柳地区

【村文化財指定】

垂柳獅子踊り保存会による村の無形民俗文化財。元和時代(1615～1624年)、田舎館組代官の所在地だった垂柳地区で始まり、殿様の歓送迎に催されていた。道化役のお可笑子、大牡丹・中牡丹、花獅子で構成され、催しの場や集落の行事で披露されています。



田澤茂「民話と村」 ／博物館（田澤茂記念美術館）

いながだでの田舎あるぎ

田んぼアートの観覧期間中、まちあるきガイド団体の田舎あるぎ衆が村内の見どころを紹介するガイドツアーを行っています。ツアーでは城址や文化財のほか、青森県内唯一の刀匠である中畑貢氏の刀鍛冶工房「刀の庵」などをガイドとともに訪問します。

くうち 空地の高架橋

－回想 垂柳遺跡－

国史跡に指定されている垂柳遺跡は、約2100年前の弥生時代に稲作農耕が行われていた事実を明らかにし、東北地方における稲作農耕史の解明につながる貴重な発見でした。田舎館村は弥生時代から続く北方稲作文化繁栄の地として、これまで米生産反収日本一を何度も記録しており、現在もさらなる良食味を目指して米の生産が続けられています。垂柳遺跡の発見や解明は、村にある遺跡の重要性を捉え調査、研究した多くの方々の尽力によるものであり、この特集では垂柳遺跡のこれまでの歴史を振り返り、発見から現在までを紹介します。

遺跡発見の黎明

明治10年、腕足動物の研究を目的に来日したアメリカの動物学者エドワード・シルヴェスター・モース氏(故人)が、政府から採集の許可を受けようと乗った汽車の車窓から、切り崩された壁面に存在していた縄文時代の貝塚を偶然目撃し、その後日本初の学術的な発掘調査による大森貝塚(東京都)の発見と、日本の大学における考古学の学術発表論文第1号として明治12年に報告を行ったところから、今日における日本の考古学に広く関心が寄せられるようになりました。

大森貝塚の発見後、遺物や遺跡の情報について学術的な集成が行われるようになり、明治30年に東京帝国大学(現：東京大学)が日本で初めて遺跡地名表一覧を編さんし、「日本石器時代人民遺物発見地名表」として発刊しました。現在の田舎館村がある地域では、明治時代からすでに土器や石器が出土しており、書中では明治30年の初版に“東山道之部陸奥國南津軽郡 畑中村”から“磨^ま截^{せつ}痕アル石斧”(原文)、明治31年の第2版に“南津軽郡田舎館村”の“舎館”(田舎館の誤植)、“畑中”、“大根子”から、土器や石器、石棒などの出土が記録されています。また、その情報提供者には、旧田舎館村初代、2代、5代村長を務めた工藤彦一郎氏(故人、書中では“祐龍”と表記)の記載があり、この頃に出土した土器が工藤氏のほか、旧田舎館村19代村長を務めた葛原運次郎氏(故人)によって東北帝国大学(現：東北大学)に寄贈されていました。

ほかにも、何らかの理由で流出した遺物が辰馬考古資料館(兵庫県)、久原コレクション(昭和3年に現：東北大学へ寄託)などに収蔵されています。旧制第二高等学校(現：東北大学)時代にこれら村内出土の土器に注目した方が、後に垂柳遺跡発見に大きく関わる東北大学名誉教授の伊東信雄氏(故人)でした。昭和9～12年には国道102号(現：県道268号弘前田舎館黒石線)開設工事があり、その際にも現在の田舎館地区から土器が出土しました。



▲田舎館地区(田舎館字東田)－田舎館遺跡(弥生時代中期)として青森県遺跡地名表に登録されているが、遺跡の中心部は現在住宅地となっている

出土した土器はいつの時代のものか



伊東氏は昭和25年に青森県を訪れ、地質学について調べていた猿賀中学校教諭(当時)の八木沢誠次氏(故人)が所蔵していた村内出土の土器を調査しました。器形や文様から弥生時代のものである可能性を推測し、「東北地方の弥生文化」として提言を行いました。

弥生時代の特徴である稲作農耕は九州地方から西日本、東日本へ伝播したと考えられていますが、伊東氏の提言当時、東北地方における稲作農耕の可能性や北限は、昭和14～16年に発見された弥生時代中期の南小泉遺跡(宮城県)から出土した土器片にあった^{もみ}粉痕や石包丁などから、南東北までと推測されていました。北東北は冷涼な気候であること、村内出土の遺物には^{もみ}粉痕のある土器がなかったこと

◀出土した土器に刻まれた文様

から、「提言の土器は弥生文化の影響を受けていると思われるが、弥生時代の特徴である稲作農耕の証拠がないため弥生時代ではなく、続縄文時代のものとするべき」と、伊東氏の提言に対して学者らからは異論が残りました。

田舎館遺跡の発見から垂柳へ



▲出土した米は残幹処理で焼き払った時に炭化したか、長い間地中に埋没していたため黒ずんでしまったと考えられている



▲昭和33年時の発掘調査

昭和31～32年に村内で圃場整備を行った際に高樋、垂柳、田舎館、畑中地区から土器や石器、土偶などが大量に出土しました。田舎館中学校教諭(当時)の工藤正氏(故人)はそれらの遺物が散逸することを危惧し、八木沢氏とともに収集に努めたところ、^{もみ}粉痕のついた土器片と米(炭化米)6粒を発見しました。

このことが東北大学教授(当時)を務めていた伊東氏に伝えられ、昭和33年に東北大学と工藤氏による発掘調査が垂柳地区を中心に行われました。その結果、多数の土器や石器、200粒以上の米(炭化米)が出土したことから、伊東氏はこれら一連の土器を弥生時代の「田舎館式土器」と命名し、津軽平野で米が作られたという仮説を証明する事実として調査報告を行いました。

この発見により、弥生時代の北限を北東北とし、稲作農耕が行われていた可能性があるかと推測できるようになったものの、学者らの「^{もみ}粉や米の存在は南方から交易によって持ち込まれた可能性も考えられ、津軽地方に弥生時代の稲作農耕が存在していたとは決定できない」という考えが根強く残りました。一方で、昭和52年に発見された日高遺跡(群馬県)では弥生時代後期の小区画水田跡が検出され、米(炭化米)も出土しており、弥生時代の稲作農耕が関東地方まで存在していたことが明らかになりました。

垂柳遺跡に現れた無数の水田跡

昭和56年、国道102号バイパス道路の整備計画に伴い、青森県による垂柳遺跡の試掘調査が行われ、浅瀬石川の氾濫によって堆積したと考えられている火山灰下から小区画水田跡11枚が検出され、弥生時代の稲作農耕が北東北まで存在していたことが明らかになるとともに伊東氏の立てた仮説が証明されました。その後、弘前大学教授(当時)を務めていた村越潔氏(故人)により垂柳遺跡発掘調査会が組織され、昭和57～58年には青森県教育委員会が主体となって、整備路線内約32,000㎡の本格的な発掘調査によって、多くの遺物とともに小区画水田跡656枚が検出されました。



▲昭和57～58年当時の調査区域



▲同じ区域の現在 (©2017 ZENRIN,Google)



▲水田跡のさらに下層からは縄文時代のもと思われる土器も出土している



▲足跡の大きさから、当時の大人は身長130～160cm程度で小柄だったと推測される

稲の成長期にやませの影響を受け、現代でも冷害に見舞われる可能性がある冷涼な地から検出された約2100年前の水田跡は、当時全国でわずか30例ほどしか発見されていなかった水田遺構関連遺跡における最北の遺跡として注目を集めました。

検出された水田跡からは、◇弥生時代中期、◇浅瀬石川の洪水で押し流されてきた火山灰に当時の水田は覆われてしまった、◇水田跡は正・長方形で整然と並び、大きさは約1～22㎡、平均8㎡、◇畦は手で土を寄せ集めて盛り上げただけの簡単なもの、◇水路は素掘りの簡単なもので用排水を兼ねていた、◇プラント・オパール（植物細胞に集積したケイ酸）分析の結果によれば耕作期間は約50～200年、◇水田面からは弥生時代の大人、子どもの足跡を検出、◇現在の農道に相当すると思われる大きな畦も検出し、そこからさらに米（炭化米）や田舎館式土器、石器が出土、など多くの調査成果がありました。

遺跡の保存と後世への伝承

東北地方で初となった弥生時代の水田跡検出を受け、田舎館村では遺跡を後世に伝えるため保存に向けた検討を始めました。昭和60年、村議会では議員団を組織して文部省（当時）を訪れ、国史跡の指定について陳情を行いました。

後に文部省（当時）からは留意とともに、指定の条件として「検出した水田跡を耕作していた生産者の居住域（生活空間である住居跡）と墓域（生産者が葬られていた場所）の発見」の指導があり、昭和61年～平成11年に国史跡の指定へ向けて田舎館村教育委員会が主体となり、垂柳、田舎館地区の約3,800㎡、垂柳遺跡の関連性と道の駅いなかだて「弥生の里」の施設建設に伴う調査として高樋地区の約9,700㎡の発掘調査を行いました。また、この間には、南津軽広域農道改良工事に伴う青森県埋蔵文化財調査センターによる試掘調査や青森県教育委員会による発掘調査も行われました。

調査の結果、水田跡の範囲は13万㎡にも及ぶことが判明し、新たに発火具の火きり杵と臼、取手の先に「熊の頭」を象った漆塗りの柄杓、作りかけや壊れて廃棄された農具の鍬などが出土しました。また、出土した土器に北海道や福島県のものがあることがわかり、石器の石材では北海道からのもの、管玉に新潟県のものがあったことから、遠方の地域と交易を行っていたことが判明しました。さらに、墓域までには至らなかったものの、いくつかの土壌墓も検出しました。これらの成果により、平成12年4月11日に垂柳遺跡は国史跡に指定されました。

垂柳遺跡に関わる一連の調査は国道102号バイパス道路開設工事に伴う「記録保存を前提とした事前の発掘調査」であり、調査終了後は埋め戻し保存がなされ、その上にバイパス道路が建設されました。現在は周辺に道の駅いなかだて「弥生の里」と弥生の里展望所（第2田んぼアート）、埋蔵文化財センター・博物館、総合案内所「遊稲の館」などがあります。発掘調査のうち、高樋地区からは高樋（3）遺跡として、垂柳遺跡と同じ弥生時代中期の小区画水田跡165枚と、水田域の拡大を意図して作られたと推測される基幹水路を検出しました。高樋（3）遺跡は同時期の垂柳遺跡に関連するものであることから、埋蔵文化財センターはこれらの高樋（3）遺跡の水田跡に覆屋をかける形で建設し、遺構露出展示室として実際の水田跡を保存公開しています。



▲遺跡の保存部分には、保護用の砂を用いて埋め戻しが行われた

なお、垂柳遺跡と違い高樋(3)遺跡の水田跡からは足跡を検出していません。弥生時代の人間の足跡が残っていた垂柳遺跡の水田跡は、昭和58年に現地の1区画約2.7m×約2.5mを液体窒素による凍結とウレタンを用いた密閉処理によって抽出し、奈良国立文化財研究所(現：国立文化財機構奈良文化財研究所)で復元したものを埋蔵文化財センターで保存公開しています。

垂柳遺跡を埋め戻し保存した地区は、バイパス道路を中心に北側(黒石市側)を保存・保護地区、南側(平川市側)を周知・活用地区とし、南側では総合案内所「遊稲の館」を拠点に、弥生時代の小区画水田を再現した「弥生体験田」による稲作体験や古代米の作付けなどの取り組みが行われています。



▲弥生体験田の田植え



▲埋め戻した遺跡への配慮として、国道102号バイパス道路で採用された空地の高架橋と田植え後の弥生体験田

垂柳遺跡に残る謎



▲砂沢遺跡から検出された大型区画水田跡(画像提供：弘前市教育委員会)

大型区画水田でした。弥生時代の中でも時期差があり単純な比較はできませんが、垂柳遺跡がなぜ小区画水田で耕作されていたのかについても明確な理由は明らかになっていません。

平成15～17年に田舎館村教育委員会は、これまで未発見のままだった居住域や墓域の発見と垂柳遺跡のさらなる解明を目的とした発掘調査を行いました。この調査では、水田跡の検出や遺物が多数出土したほか、新たに竪穴式住居跡2基と堀立柱建物跡13棟を検出しました。しかし、竪穴式住居跡と堀立柱建物跡の間には時期差があり、調査の結果、どちらも水田跡が存在した時期より数十年単位で古いものであることがわかり、関連性は不明のまま、生産者の居住域や墓域については今も多くの謎に包まれています。

遺跡はまだまだある!? 埋蔵文化財包蔵地としての田舎館村

村内には垂柳遺跡のほかに、現在24箇所の遺跡(全国の約46万箇所に存在している文化財保護法における“周知の埋蔵文化財包蔵地”)が存在しており、P.9で紹介した田舎館遺跡のように、各集落の住宅地や畑、道路などがある土地に広く点在しています。

これらの土地で新たに住宅などの建築工事等をする場合は着工前の届け出義務があり、現地調査や試掘調査が必要となります。調査の際には、ショベルカーのような重機手配等の調査費用が必要となる場合があるほか、調査にかかる期間によっては工事着手の時期が変わる可能性もあるなど注意が必要ですが、地域に現在も受け継がれている伝統行事や風習と同様に、これらの遺跡も先人が築いた歴史の一端として私たちの生活と共存しています。



▲住宅の建築工事に伴う田舎館村教育委員会の試掘調査

産業・物産



田舎館村の基幹産業は農業です。近年、農業を取り巻く環境は高齢化や後継者不足問題、価格の低迷や農産物の輸入自由化による競争激化など、依然として厳しい状況が続いており、行政をはじめ、関係機関や農家では、主要作物と野菜、花き等を組み合わせた複合経営や集落による営農組織化などが進められています。主に米やりんごが生産されていますが、休耕水田での大豆生産、ビニールハウスなどの園地施設によるトマトやいちご生産、暗渠排水で汎用化した水田でのブロッコリー生産など、高収益作物への転換も図られています。

農業に従事しながら1年を通して収入が得られるよう、農産物加工施設による加工品の販売拡大、農家の6次産業化による商品開発支援、産地直売センターとの連携強化などを図っています。また、春には村内の生産者が栽培したナス、キュウリ、トマトなどの野菜苗や色とりどりの花壇苗を展示、販売する「苗っこまつり」を開催。秋には芸能発表や物産販売など様々な催しとともに、村内の生産者が栽培したシクラメンなど約5000鉢以上を展示、販売する「収穫感謝祭&シクラメン市」を開催し、どちらの行事も多くの方で賑わいを見せます。

村では農業の振興と併せて企業誘致にも取り組んでいます。青森県内でも早くから工業団地を整備し、現在は製造業を中心に30社が操業。村内外の700人以上が働く貴重な雇用の場となっています。



ブロッコリー



熟成黒にんにく／(有)ケイエス青果



トマトジュース・ドレッシング／たざわトマト



たんぼアート黒サイダー／たざわトマト



苗っこまつり



収穫感謝祭&シクラメン市



誘致企業



祝い亀

古代から栽培されていたと推定される「紫稲」で作られた手作り工芸品。



田舎館のだぐ（日本酒）

田んぼアートの米で造った日本酒。飲み口はまろやかです。



スチューベン／ぶどうジュース

甘さと酸味がほどよいスチューベン。ジュースは果汁100%使用の濃厚な味が人気。



りんごジュース

果汁100%使用。新鮮な青森りんごならではのフレッシュな味わい。



いちご

主力品種は主に冬～春に収穫される冬いちごの「とちおとめ」で、甘さと酸味、香りのバランスが優れています。加工用として収穫期が夏～秋の夏いちごも生産されています。



シクラメン

品種改良が進み、色が豊富です。秋に開催する収穫感謝祭＆シクラメン市で展示、販売しています。

「おいしい田舎館」の創出

平成28年8月、村の地方創生事業の一環として、田んぼアートのブランド化を基盤に村産米のブランド化、温泉熱を利用したビニールハウスによる果樹等の通年栽培及び観光農園としての活用などにより、農業の高付加価値化や新しい産業の創出、将来的な地域商社の設立を目指して、田舎館村、村の米生産団体「稲華会」、田舎館いちご研究会で構成する田んぼアートの里ブランド化推進協議会を設立し、パイロットファーム事業や人材育成事業などに取り組んでいます。



村産米「あさゆき」

稲華会が手掛けている冷めてもおいしい、硬くなりにくい低アミロース米の新品種。朝（あさ）に降り積もる雪（ゆき）のような、淡く白い見た目が名前の由来です。

粘りが強く、上品な甘さが特徴で、毎日の食卓だけではなく、お弁当やおにぎりにも適しています。平成28年度から本格的な販売を始め、知名度の上昇とともに各種メディアでも紹介されるなど好評を得ています。代表的な青森県産米の「つがるロマン」、特Aを初取得した「青天の霹靂」と併せて、「あさゆき」も環境に配慮した栽培方法を取り入れた特別栽培米として、作付けの拡大が進められています。



温泉熱ハウスといちご栽培

協議会が新規就農者の育成や通年の観光農園に活用するパイロットファーム事業として役場東側（第1 田んぼアート付近）にビニールハウスを整備。道路を挟んだ向かい側にある温泉施設「老人憩の家」から温泉を配管で敷設し、温泉熱を利用して冬期間のハウス内を温める特徴を備えるほか、プランターを高い位置に設置し、立ったまま作業ができる「高設栽培」を取り入れ、さらに、プランターにチューブを通して肥料を混ぜた水を自動で送る点滴灌水の装置を使って、作業効率の向上を図っています。就農を目指す研修生がいちご栽培を学べるほか、平成29年7月には夏いちご「サマールビー」の収穫が楽しめる観光いちご園として開園もしました。

特産品開発と求評懇談会

企業や関係機関と連携し、村産米「あさゆき」や村産いちごなどの農産物等を活用した新たな特産品の試作や、商品化に向けた意見交換会を行っています。



教育・福祉

平成23年度に田舎館、西、光田寺の3小学校が統合し、西小学校舎を学舎として新しい田舎館小学校が発足しました。平成26年度には学校給食センターが田舎館中学校敷地内に完成し、小・中学校へ給食の提供を開始し、村産・青森県産食材を取り入れながら栄養バランスに優れた給食を通じて、児童、生徒への食育を推進しています。また、設備の有効活用を図り、他市町村の学校施設等へも給食の提供を行っています。

学校教育では、就学や在学中における相談体制を確立しているほか、スクールカウンセラーや学習支援員を両校に配置し、児童、生徒の個性を尊重した指導、支援を図っており、将来的な小中一貫教育の実現を目指しながら、学校・家庭・PTA・地域の連携をより強め、教育環境の充実を図っています。

社会教育等では、村内保育所等を会場に、親子のコミュニケーションや子どもの健康管理など様々なテーマで行う家庭教育講座、主に小学校児童の校外活動として保護者主体で行われているスポーツ少年団活動、子ども会育成連絡協議会によるリーダー研修会やスポーツ大会、成人の学習ニーズに応じて実施する成人教養講座、村立体育館及び克雪トレーニングセンターの利活用や田舎館村体育協会をはじめとする各種スポーツ大会等の社会体育活動、健康講座や教養講座など高齢化社会に対応した生涯学習を提案しながら年間を通して実施する白寿大学など、幼児から高齢者まで多様な学習機会の充実を図っています。

ALT (外国語指導助手)

教育委員会ではALTを配置し、両校でより効果的な英語学習を進めています。なお、田舎館小学校は平成26年度に文部科学省教育課程特例校の指定を受け、「国際科」を新設して全学年へ英語を中心とした外国語学習を実施しています。



小学校スクールバス



学校給食センター



家庭教育講座



白寿大学

子育てに安心、健康に自信を

村の明るい未来のために、短命村の克服、子育て世帯における経済、育児負担の軽減などの課題へ積極的に取り組んでいます。平成29年度、村では健康推進係を新設し、食生活改善推進員や保健協力員と連携しながら乳幼児健診、特定健診、各種がん・骨密度検診の実施、啓発、食育や減塩などの推進を行っています。安心して出産、子育てができ、健康で長生きができる環境を構築するために、教育や福祉では様々な取り組みを進めています。

【主な取り組み】

- これから妊娠を予定している女性やそのご家族等への風しん抗体検査・予防接種の費用を助成
- ハイリスク妊娠・分娩における通院費用等を一部助成するハイリスク妊産婦アクセス支援事業
- 体外授精及び顕微授精等の特定不妊治療にかかる費用を一部助成する特定不妊治療費助成事業
- 妊婦健康診査、各種予防接種の費用を助成
- 0歳～中学校3年生の診療や入院などにかかる医療費の自己負担額を全額助成する乳幼児・子ども医療費給付事業
- 中央児童館内に子育て支援センターを開設し、乳幼児の育児不安等について相談や指導を実施
- 多子世帯における保育料の軽減
- 第3子以降の出産に祝金を支給する出産祝金支給事業
- 奨学生制度
- 第3子以降の児童、生徒が小・中学校へ入学する場合に祝金を支給する入学祝金支給事業及び第3子以降への学校給食費の減免措置
- 中学校3年生及び高齢者を対象にインフルエンザ予防接種の費用を一部助成
- 地域高齢者見守り福祉事業による高齢者の安否確認や民生・児童委員による高齢者や児童、生徒の見守りの実施
- 所得の低い高齢者世帯を対象に灯油を給付する福祉灯油給付事業



△医療機関が少ない田舎館村では村内に会場を設けて集団健診を実施し、移動に伴う負担軽減を図っています。



食生活改善推進員による料理教室



子育て支援センター



保育所等の入所児や保護者を対象としたむし歯予防教室

防災・交通



△地区の住民で組織された自主防災組織の防災訓練・講習会

東日本大震災の発生後、東北地方の復興とともに田舎館村では防災体制の見直しや強化を図っています。

突発的な災害による被害の防止や軽減、住民の防災に対する意識の啓発を図るため、地区住民による自主防災組織の設立と育成、発電機や炊き出しに必要な資機材の整備などを進めています。また、停電時の備えとして平成26年度に役場及び一部教育施設へ蓄電池を備えた太陽光発電を設置しました。

住民が安全で快適に暮らせるよう、消防団活動の推進や消防設備等の整備、交通安全協会、交通安全母の会、交通指導隊、防犯指導隊など関係団体と連携しながら、防火や交通安全、防犯の取り組みを行っており、平成29年度には村内の交通死亡事故数3年間皆無を達成しています。

公共交通機関では、JR奥羽本線と五能線が行き交うJR東日本の川部駅、黒石市～平川市～弘前市間を結ぶ弘南鉄道の田舎館駅、弘前市を中心に管内を運行する民営路線バスのほか、タクシーもあり、最寄りの交通機関を利用することができます。また、道路では主要幹線が整っており、適切な維持補修を継続しています。冬場の除排雪についても万全の体制を敷き、安定した交通網の確保に努めています。



田舎館村消防団出初式



交通安全では啓発活動や講習会、街頭指導などを実施



平成27年度に街路灯等LED化事業を実施し、村内の街路灯1491灯をLED化。環境への配慮や長寿命化など機能性の向上を図りました。



JR東日本/川部駅



弘南鉄道/田舎館駅



除排雪

行政・議会



田舎館村役場・文化会館・展望台は、今から約400年前に田舎館地区に居城を構え、付近一帯を治めていた田舎館千徳氏五代掃部政武の心情を察し、全体がお城に見えるよう設計しています。行政サービスを提供する場であると同時に、展望台4階展望デッキ、6階天守閣は第1田んぼアートや津軽平野の景色を一望することができる観光スポットとなっています。行政では、人口減少、地域経済の発展、地方創生など“村づくり”を進めるために、関係機関と連携を取りながら、様々な施策に取り組んでいます。

村議会は、平成25年9月議会において議員定数削減案を可決し、平成27年9月の議員一般選挙から議員定数が8人となりました。年4回の定例会と必要に応じて開かれる臨時会で、条例の制定や予算の決定など行政の重要項目の審議、議決を行って、住民の福祉向上と村政発展に努めています。議会の活動や議事の要旨は広報誌「広報いなかだて」に掲載しており、より開かれた議会を目指して議会運営に取り組んでいます。



村長 鈴木孝雄



村議会議員 (平成29年4月1日現在)



議長
鈴木 和久



副議長
田村 道雄



鈴木 孝一



山崎 洋



平川 重廣



品川 正人



品川 新一



福地 誠



副村長 葛西 幸男



教育長 金枝 尚明



夜間・休日納税相談

通常の開庁時間のほかに、毎月それぞれ1日ずつ平日夜間と休日に税務課窓口で税の納付や相談を受け付けています。また、職員や専門の相談員による農家、人権・行政、法律、心と体などの各種相談も実施しており、窓口サービスの利便性向上に努めています。

春



ポーノ神／十二川原地区

集落に悪疫が入らないようにと、蛇や男女（夫婦）、猿のわら人形を作って集落の入り口などに奉り、家内安全や五穀豊穡を願う伝統行事。同様に、わら人形を祭るポーノ神送りと呼ばれる行事が大曲地区でも行われています。



全村一斉空き缶拾い

雪解けに合わせて、毎年4月初旬に村内全地区で一斉に行われている清掃活動。住民は自分たちの住む地区内を巡回し、不法投棄や、歩道、側溝などに落ちているごみを拾い集め、農作業や観光シーズンの到来に備えます。



ポーノ神送り／田舎館地区

五穀豊穡と悪病退散を祈願する伝統行事。集落に悪いものが近寄らないようにと、太鼓や「ささら」の音に合わせて、仮装した大人とともに子どもたちが太刀振りや、荒馬に扮した踊りを披露しながら集落を巡ります。

夏



村民体育レクリエーション大会

村内全集落から参加者が集う大運動会。子どもから大人まで、徒競走やクイズ大会、障害物競走などに参加しながら住民同士交流を深めています。



栃ノ海杯相撲大会

名誉村民の花田茂廣氏(元横綱栃ノ海)に続く力士を目指して、県内外の小・中学生力士が村民相撲場へ集い、熱戦を繰り広げます。



宵宮・納涼祭

各集落ではこの時期、神社や集会施設、公園を会場に宵宮や納涼祭などが盛んに行われ、夕涼みに繰り出す人たちが賑わいをみせます。

ねぶた運行

津軽の短い夏を彩るねぶた。7月末から8月7日ごろにかけて各集落のねぶたが村内各所を運行します。また、8月4日には田舎館中学校に各集落のねぶたが一堂に集まり、役場までの区間で合同運行が行われます。





田舎館中学校「館中祭」



敬老会

敬老の日にちなみ、白寿や米寿、金婚を迎えた方々をお祝いします。



野球大会

集落対抗で結成されたチームが、小学校グラウンドと中学校野球場を会場にトーナメント方式で対戦。試合終了後は地元で懇親会を行うチームが多く、集落や住民の交流の場となっています。

秋



9月、村内の保育所（園）や認定こども園では運動会が行われます。保護者の声援や励ましを受け、子どもたちは元気いっぱい！

冬



権現様・裸参り／八反田地区

元旦の早朝、年縄の奉納に先立って権現様（獅子頭）が集落を巡り、出迎えた住民に「頭かじり」を行います。その後、男衆が地区の八幡宮に年縄を奉納し、神事で五穀豊穡、無病息災を祈願します。なお、権現様は、夏の前田屋敷地区でも行われています。



スキー教室

田舎館スキー倶楽部が冬休み中の小学生児童を対象に弘前市内のスキー場で毎年開催し、初心者にもわかりやすくスキーの基礎を教えています。



カバカバと福俵／大根子地区

福の到来を願う伝統行事。集落の家々を訪問して、「舞い込んだ、舞い込んだ、福俵が舞い込んだ」と歌いながら俵を転がし、軒先に野菜で作った人形（カバカバ）を立てかけます。



弥生の里凧揚げ大会

村民憲章 (昭和60年11月25日制定、平成29年12月1日改正)

わたくしたちは、北方稲作文化繁栄の地を誇りとし、輝かしい歴史と伝統をきずいてきた田舎館村民です。
わたくしたちは、秀峰岩木のみねを仰ぎ、浅瀬石川の清流にうろおされている土地に住む幸せを感じ、さらに
村民ひとしく健康で、豊かな村づくりを目指して、次の憲章を実践します。

- い 命を大切にし、水と緑を愛し、健康で活力のある村づくりにつとめます。
- な 何事にも協力しあい、人の和をはかり、明るい村づくりにつとめます。
- か 考えを深め、学ぶ態度を養い、創意に満ちた村づくりにつとめます。
- だ 誰ともふれあう心を持ち、思いやりのある村づくりにつとめます。
- て 天と地の恵みに感謝し、働くことを尊び、豊かな住みよい村づくりにつとめます。

田舎館村民歌 (平成27年4月1日制定)

平成27年4月1日、田舎館村は旧田舎館村、光田寺村との合併60周年を記念して、田舎館村民歌を制定し、7月26日に開催した合併60周年・村民歌制定記念式典で披露しました。制作にあたり、村をイメージするフレーズ及び歌詞を公募した中から次の方のフレーズ及び歌詞を採用し、弘前大学名誉教授である安達弘潮氏が作曲、安達氏と村民歌制定委員会が歌詞を補作しています。

【フレーズ採用者】 順不同

阿保由美子 (田舎館村)、佐々木鶴池子 (田舎館村)、山本正志 (田舎館村)、
山本幸美 (田舎館村)、「田園」未来を築く会 (田舎館村)、小友美保子 (藤崎町)、
長利冬道 (弘前市)、田中尚子 (弘前市)、松田耕一郎 (弘前市)

【歌詞採用者】

保岡直樹 (東京都)

田舎館村民歌

昇る朝陽に 八甲田
仰ぐ岩木峰 緑も躍る
弥生ロマンが 満ちあふれ
いのち燦めく 稲の花
歴史と文化を 受けついで
明日を拓く 田舎館

流れ清らか 浅瀬石川よ
四季を彩る 津軽の大地
集う人の和 はずむ夢
笑顔あふれて 実る里
豊かな恵みに 感謝して
しあわせ願う 田舎館

そよぐ稲穂に 光る風
七色を織りなす 田んぼアート
枝を広げて たくましく
のびるサイカチ 道しるべ
未来の 大きな空 田舎館
飛翔く我ら いさいさと

主 な 施 設

／資料編

行 政 関 連

田舎館村役場・展望台（第1田んぼアート）	
田舎館字中辻123-1	0172-58-2111（代）
（防災無線放送）	0172-58-2151
教育委員会	
田舎館字中辻123-1	0172-58-2363
学校給食センター	
畑中字観妙寺40-1	0172-55-9912
中央公民館	
畑中字藤本159-1	0172-58-2250
文化会館	
田舎館字中辻123-1	0172-58-2250（代）
村民体育館	
畑中字藤本159-5	0172-58-2250（代）
光田寺体育館	
東光寺字村井66-1	0172-58-2250（代）
克雪トレーニングセンター	
八反田字古館217-3	0172-58-2250（代）
中央児童館	
田舎館字中辻2-4	0172-58-2242
光田寺児童クラブ	
東光寺字村井66-1	0172-58-4281
西児童クラブ	
大根子字牧ヶ袋80	0172-58-4147
除雪センター	
大曲字早稲田94-1	0172-58-3915
老人福祉センター	
前田屋敷字東中野35-1	0172-58-2221
ふれあいセンター	
川部字村元33-1	0172-75-5211
老人憩の家	
畑中字藤本169	0172-58-3555
社会福祉協議会	
八反田字古館206-1	0172-43-8111（代）
（老人デイサービスセンター）	0172-43-8112
（在宅介護支援センター）	0172-43-8113
（地域包括支援センター）	0172-58-3704
埋蔵文化財センター・博物館（田澤茂記念美術館）	
高樋字大曲63	0172-43-8555
総合案内所「遊稻の館」	
垂柳字長田47	0172-58-4689
道の駅いなかだて「弥生の里」	
高樋字八幡10	0172-58-4221（代）
（産地直売センター）	0172-58-4411
（レストランジャイゴ）	0172-43-8121
（FMジャイゴウェーブ）	0172-43-8210
弥生の里展望所（第2田んぼアート）	
高樋字泉4-1	0172-58-2111（代）

学 校

田舎館中学校	
畑中字観妙寺40-1	0172-58-2240
田舎館小学校	
大根子字牧ヶ袋80	0172-58-2253

保 育 所

畑中保育所（株式会社アイナック）	
畑中字藤本17	0172-58-2100
光田寺保育園（社会福祉法人幸成会）	
前田屋敷字西田37-2	0172-58-2222
田舎館こども園（社会福祉法人日の出会）	
川部字上船橋52-8	0172-58-2254
川部西ヶ丘保育園	
川部字上西田130-15	0172-75-2300

警 察 ・ 消 防

黒石警察署田舎館駐在所	
八反田字古館217-3	0172-58-2241
黒石警察署川部駐在所	
川部字村元87-3	0172-75-3012
弘前地区消防事務組合黒石消防署田舎館分署	
八反田字古館206-1	0172-58-2962

郵 便 局

田舎館郵便局	
畑中字藤本169-3	0172-58-3710
川部和泉郵便局	
川部字村元77-8	0172-75-3200
前田屋敷簡易郵便局	
前田屋敷字東中野16-4	0172-58-4628

医 療 機 関

津軽三育医院	
川部字上西田130-12	0172-75-3755
田舎館歯科クリニック	
八反田字古館119-1	0172-58-4618

団 体 等

J A 津軽みらい田舎館支店	
田舎館字中辻145-1	0172-58-2211
J A 津軽みらい田舎館基幹グリーンセンター	
枝川字館子145-1	0172-58-3638
商工会	
畑中字藤本180	0172-58-2417
シルバー人材センター	
畑中字藤本159-1	0172-58-3990
J R 東日本川部駅	
川部字上西田31-2	0172-75-3000
J R A ウインズ津軽	
高樋字地内大曲7-1	0172-58-2020（代）



冬の津軽地方は雪に恵まれ、

田舎館村にはアートの二毛作が実ります

#冬の田んぼアート
#スノーシュー
#雪原
#スノーアート



RICE PADDY ART & SNOW ART

「田んぼアートの村」青森県田舎館村
<http://www.vill.inakadate.lg.jp/>

2017 村勢要覧
発行／ 田舎館村 青森県南津軽郡田舎館村大字田舎館字中辻123-1
TEL : 0172-58-2111 (代表)
編集／ 田舎館村企画観光課
印刷／ やまと印刷株式会社

Photo / 山口貢さん (スノーアーティスト集団 It's OK.)